

平成28年度第1回社会教育委員会議会議録							
開催日	平成28年7月27日(水)			開会時間		14時00分	
会 場	市役所6階 602会議室			閉会時間		16時00分	
委員の 出欠状況	伊藤 正志	出	加藤 聡司	出	石原 規子	出	
	西 貴美雄	出	川合 香代子	欠	又地 淳	出	
	小田原紀慧子	出	花岡 里恵子	欠	久米 隼	出	
	鳥飼 八五良	出	伊藤 芳夫	出			
	○村山 喜三江	出	長田 真希	出			
	◎戸部 恵一	出	榎本 俊明	出	◎議長 ○副議長		
傍聴者	なし						
事務局	【教育委員会】 大久保教育長、星野教育部長 【生涯学習課】 亀井課長、鈴木課長補佐、細野統括主査、磯崎主任 【スポーツ青少年課】 亀井課長						
議 題	1 平成28年度和光市教育行政の基本目標と重点施策について 2 平成27年度事業報告及び平成28年度事業計画について(資料2) ア 生涯学習事業について イ 文化財保護事業について ウ スポーツ振興事業について エ 青少年担当事業について 3 平成28年度社会教育関係団体への補助金交付案について(資料3) 4 社会教育推進に関する意見交換について(資料4) テーマ 「地域課題の発見と、その解決のために社会教育委員としてできること」						

1 開会

2 あいさつ

○大久保教育長

今年の夏は、梅雨明けが関東は例年に比べて大変遅いようで、まだ梅雨明けしていません。小学校の方では、7月21日から明日まで市内9校が林間学校を行っています。もうすでに済んだところからの報告を聞くと、雨にあってしまったということで、1番残念だなと思っております。今日が最後になりますが、下新倉小学校が、今日から明日、明後日と群馬県の嬬恋の方へ行っております。

さて、本日はご多用の中、平成28年度第1回和光市社会教育委員会議にご出席いただき、誠にありがとうございます。今日は協議が4点ほどありますけれども、特に4点目の「社会教育推進に関する意見交換について」ということで、時間を設けております。

現在、当市では公民館運営に関しての重要な取組みとして、地域課題をどのように取り組んでいくかということを非常に大きな課題としております。今日はそういった関係で、「地域課題の発見と、その解決のために社会教育委員としてできること」というテーマでお話をさせていただく訳ですが、これからの公民館改革の中に大きなご示唆をいただければありがたいなと思っております。限られた時間ですが、よろしくお願いいたします。

○事務局

市民参加条例第12条第4項の規定による会議公開及び要点記録による会議録の公開について説明。

3 委嘱式

人事異動により新たに委員となった西委員(市立小中学校長会)へ大久保教育長から委嘱書の交付

4 議題

(1) 平成28年度和光市教育行政の基本目標と重点施策について

○議長(議事進行)

平成28年度和光市教育行政の基本目標と重点施策について、事務局から説明をお願いします。

○事務局

資料1「平成28年度和光市教育行政の基本目標と重点施策」に基づき説明。

○又地委員

まず昨年度の評価を報告していただいた上で、今年度の目標や重点施策についてお話しいただけると、昨年度からの変化や継続性が理解しやすくなると思う。

○事務局(生涯学習課長)

基本的には平成27年度の事業は継続していきますが、その中で新たに、生涯学習課で言えば、わこうっこクラブの校数を増やすという事業の充実を図っております。

比較について、もし今後ご説明が必要であれば、次回から変更点、新規事業をわかりやすく説明していこうと思います。

(2) 平成27年度事業報告及び平成28年度事業計画について

ア 生涯学習事業について

イ 文化財保護事業について

ウ スポーツ振興事業について

エ 青少年担当事業について

○事務局

資料2「平成27年度事業報告及び平成28年度事業計画」に基づき、事業実施に関する写真と合わせて説明。

○又地委員

和光市には、理化学研究所があるので小さい子どもたちが科学に親しむ場を強化していくのも、和光市としての特色を出していく上では面白いのではないかと。

科学的なものに触れる機会を提供するということに関して、何か検討しているのか。

○事務局(生涯学習課長)

生涯学習課では、子ども科学教室というものを理化学研究所と連携して、年2回実施している。平成27年度は、1回目の対象が小学校4年生～中学校3年生、2回目の対象が小学校1年生～小学校6年生だった。

理化学研究所の方と話をしている中で、科学という内容が、低学年には少し難しいのではないかというお話をいただいているが、来年度に向けて、理化学研究所の担当の方にお話をし、低学年でも体験できるような科学教室を検討していきたいと思う。

○教育長

子ども大学わこうは、理化学研究所や市内の公的機関との連携の中で、学校では勉強できないようなことに興味関心を持ってもらおうという趣旨でやっている。

また、民間との連携ということで、学校でも科学教室を開けるノウハウを持っている民間の企業を活用して、子どもたちの興味関心を引き起こすような授業を実施している。

小学校1、2年生は、「理科」という教科がなく、「生活科」という枠組みでやっているのですが、難しい面もあると思うが、検討していこうと思う。

○戸部委員

事業計画を見ても、小学校1、2年生が参加できるものが少ない。保護者の協力を得られなければ出来ない部分もあると思うが、理化学研究所があるので、小さな子どもたちでも参加できるようなものが出来れば良いと思う。

○又地委員

もっと遊び感覚で、専門家がいなくても親御さんの協力があればできるようなものを増やして欲しい。

○石原委員

放課後子ども教室では9月から、科学者としての現役をリタイヤされた方々が子どもたちに理科実験教室を行っている「くらりか」に来てもらう。3月までに、低学年向けの「くらりか」という理科実験教室を市内8校で行う予定。

市内で、人材・情報を集めようとするのは非常に厳しい状況なので、もっと外に目を向ける必要がある。色々な経験をして現役を退き、子どもたちに色々なことを伝えていきたいと思っている人はたくさんいるので、そういう方に目を向けて、コンタクトを取っていくことも必要なのではないかと思う。

(3) 平成28年度社会教育関係団体への補助金交付案について

○事務局

資料3「平成28年度社会教育関係団体への補助金交付案」に基づき説明。

○議長

今説明のあった補助金交付について、みなさんからご質問等あればお願いします。

○各委員
質疑なし

○議長

では、ないようでしたら事務局には各団体へ交付の手続きを進めて頂きたいと思います。

(4) 社会教育推進に関する意見交換について

【テーマ】「地域課題の発見と、その解決のために社会教育委員としてできること」

○事務局

資料4「社会教育推進に関する意見交換について」に基づき説明。

○伊藤正志委員

本校の生徒で和光市から来ている子は1割に満たないため、地元との接点が少ない。

ほとんどの生徒が、和光市駅から学校まで歩いてくるので、地域の方に迷惑をかけないよう注意をしている。

学校では、高校生になったら、災害があったとき、助けられる側ではなく、助ける側にまわるよう話をしている。学校にいる場合も、通学途中の場合も、お手伝いが出来ることがあれば、高校生はお手伝いをするよう話しているので、そういった形で、地元と防災関係を築いていけるのではないかなと思っている。

○西委員

学校教育とは、生涯に渡って学び続ける学習者を育てる視点というのが大事だと思った。改めて、学校開放講座や放課後子ども教室等の事業を通して、地域の学びの拠点であったり、地域の子育ての拠点となっているということを実感している。

開かれた学校づくりの視点から言うと、保護者や地域の皆さんにアンケート調査等をお願いして、それに対応する方策を学校として考えているので、そういった部分で、それぞれの学校の置かれた状況に応じた課題の発見があるのではないかなと思っている。

ただ、学校の内部だけで解決できる問題と、市の関係機関にご協力いただく問題や地域住民の皆さまにお力添えをいただく部分が出てくることがあるので、見通しを立てながら進めて行くことが大事だと考えている。

○小田原委員

市内4園の園長会議において、社会教育の観点から、幼稚園として何ができるのかを、今後話しあっていこうと思う。

住宅地の中にある幼稚園だが、運動会やその他いろいろ行っているが、苦情がくることもなく、地域の皆さんに支えていただいていることを実感し、ありがたく思っている。

夏休みに預かり保育を行っていて、社会福祉協議会のボランティアセンターに今年初めて申込みをした。毎日、中学生・高校生が2、3人来てくれていて、幼稚園を希望するお子さんは、「幼稚園の先生になりたい」「役に立ちたい」という強い希望を持って来てきている。子どもたちにとっても、いいお兄さん・お姉さんで、特に今みたいに兄弟が少ない中では、非常にいい活動になっているなと思っている。園としては、とてもありがたいと思っている。

和光市では、子どもの貧困についてはどのようになっているのかが気になっている。

○教育部長

市全体で言うと、保健福祉部社会福祉課では生活保護制度というものがある。

子どもの貧困は、つまり親の貧困でもあるので、平成27年4月1日から「和光市くらし・しごと相談センター」というものを市内に2ヶ所(本町・南)設置し、世帯全体を見る形で、子どもたちの貧困に対して、親の就職のお手伝いをしたり、相談を受けたりしている。

学校の方では、就学支援制度というものがある。要保護児童の他に、準要保護児童というものがあり、そういう制度を元に、修学旅行の費用、給食費、副教材費等の支援を行っている。

○鳥飼委員

地域の発展が著しく、新しい住民が非常に多くなり、公民館活動も変わってきている。

○加藤委員

PTA活動自体は、女性が非常に多い団体であるが、近年に入ってから共働き世代が多くなり、男性の参加も多くなってきている。しかし、男性の参加率は全体的に見ると低い。

各小学校・中学校では、「おやじの会」というものがある。女性の方は、コミュニティーに入るのがとても上手で、新しいコミュニティー・既存のコミュニティーにスムーズに入ることが出来る。しかし、男性の方は、新しいコミュニティーに入る・作るということが苦手なので、「おやじの会」というものを活用して、お父さんを取り込む活動をしている。

今、新しく和光市に住む保護者世代の方々に、なぜ和光市に住もうと思ったかを聞くと、利便性・お手頃感が大きいのかなと感じる。そこに、「愛着」というものをプラスさせたい。

和光市をもっと理解してもらって、お父さんたちと一緒にいろいろな活動が出来たら、そこに「愛着」が生まれ、それを見ている子ども世代がそれに影響されて、一度和光市から出ても、大人になって、またお父さん・お母さんが愛した和光市に戻って来たいと思えるような町づくり、人間作りが出来るような活動をしていきたいと思う。

○伊藤芳夫委員

自分の関わっている地域(丸山台1丁目、丸山台2丁目、丸山台3丁目、中央地区)は、地域の開発が進んでいる地域で、防犯の問題では毎日のようにトラブルがある。

また、丸山台1丁目、丸山台2丁目、丸山台3丁目、中央地区だけで、外国人・住民登録をしていない住民がたくさんいると言われている。

夜中に大声を出して街中を練り歩く者、交差点の余地で宴会まがいの事をする者、公園の中でバーベキューを行い、ゴミや火の後始末をしない者など、問題が累積しすぎて、何から手をつければいいのかわからない状況である。市の危機管理室や学校の先生にパトロールをしてもらっているが、犯罪は一向に減らない。

国の政府施策(「年金生活者等支援臨時福祉給付金」)の説明がわかりづらく、自治会長や自治会連合会に問合せがくることがあるので、市がしっかりと説明をしていけばトラブルがなくなるのではないかと思う。

いろいろな問題があるが、市にも協力してもらい、少しずつ解決していければと思っている。

○長田委員

昨年の10月から施策が変わり、和光市は「ネウボラ」ということで子育てに関して熱心に行っている。その中で、みなみ子育て支援センターやしらか子育て支援センターと同じように、もくれんハウスも子育ての拠点として、相談できるケアマネを常駐しながらやってきている。

利用者から、北側(新倉方面)に遊具があつて小学生も一緒に遊べるような公園がどんどん減ってきて困っているという声があがっている。

乳児を持つお母さん方は、保育園の園庭開放等を利用するなど工夫をしているようだが、小学生が自分たちで遊びに行ける公園となると難しいようなので、そういう点を考えていけたらと思っている。

最近では、もくれんハウスを利用していたお子さんが小学生くらいになり、放課後遊びに来て、片付けを手伝ってくれたり、夏休みに行く場所がない時には、もくれんハウスに来て、小さい子どもたちと一緒に遊んだり、手伝いをしてくれたりしているので、こういった形で、地域にも開かれて、冒険できる場所であればいいなと感じている。

○榎本委員

社会教育を考えたときに、そこにある地域課題や生活課題から学ぶことが多いと思う。社会教育が盛んな地域というのは、自助・共助・協働推進というものが取り組まれているところが多い。

最初に地域課題を考えたときに、「地域とは何か。」ということを考える必要がある。地域というのは、住民の生活に密着した社会教育の拠点である。和光市の地域課題は、市内の公民館(3館)を捉えていくことだと思う。社会教育委員として何が出来るかを考えたときに、地域の方と社会教育委員を含めて、各公民館でワークショップを行ったらいいと思う。その中で、地域・自分たちの力で解決できるものもあると思うが、解決できないものに関しては、他の団体(学校・PTA・商工会・社会教育団体等)や行政と連携して解決していくなど、いろいろな方法があると思う。

地域課題というものが問われているが、逆に地域の町の素晴らしさを知って、それをどのように伸ばしていくかということも考えていく必要があるのではないかなと思う。

○石原委員

放課後子ども教室で感じることは、学校によって温度差があるということ。いろいろなものを企画して、子どもたちに提供をし、たくさん子どもたちが参加してくれるのは嬉しいことだが、それを見守るスタッフが足りないため、今まで定員を設けていなかった運動系の教室も定員制になっている。また、学校(地域)によって、人気のある教室にかなりの差がある。

土日に公民館を利用して、「おやじの会」や地域の人に協力してもらい、人気のあった子ども教室(工作教室等)を開催できれば、抽選で外れてしまった子も参加できるチャンスが増え、もっとたくさん子どもたちを受け入れる受け皿になるのではないかなと思う。

○又地委員

いろいろな所に住んできたが、和光市には史跡もあり、愛着を感じつつあるが、交通マナーが非常に悪い。本町地区は、子どもだけでなく老若男女、信号無視が非常に多い。また、歩道を我が物顔に走る自転車や右側の路側帯を走る自転車が多い。

交通安全の教育をした方がいいと思うが、守らない人ほど、こういう事には興味がない。

みんなが集まる場所でビラを配ったり、説明したり、少しずつ売り込んでいくような形にして、アクセスを高めていってはどうか。

○久米委員

子どもを連れて歩いていると、地域の人がよく声を掛けてくれる。地域全体で子どもを可愛がってくれるというのは、子育てをしている親にとっても非常に嬉しいことだし、子どもにとってもいい影響があると思う。それがまさに地域だと思う。

地域によって、いろいろな課題を持っているが、他人事だと思っている人が多い。他人事から自分事に切り替えていくことがターニングポイントだと思っている。

地域の人だけですべての課題を解決するのは難しいと思うので、地域の人がキーマンとなって、人伝いにいろいろな人を巻き込んでいき、みんなで解決していけばいいと思う。

○村山委員

和光市は、体育の施設(テニスコート等)が非常に少ないので、もう少し充実してくれたら嬉しい。

体育協会と市との協働事業で行っている高齢者の「グランドゴルフ」では、暑い中、高齢者の方が頑張っている姿を見て、見ているこちらが元気をもらっている。

体育協会も高齢化してきて、若い人は勤めていたり、なかなか活動が出来ないが、今いる人たちの中でやりくりして、元気で明るい和光市にしていけたらと思っている。

○戸部委員

ボーイスカウトで集会を行う場所が無くて悩んでいる。

交通マナーは本当に悪いと思う。

いろいろな課題があるが、私たちが出来ることからやっっていこうと思った。

○教育長

ありがとうございました。

社会教育の範疇の中で重要な役割を果たしている公民館をどのようにしていけばいいのかということが非常に重要な課題である。

公民館活動の中で、学習者の要求課題というものはあってもいい。一方で、公民館は何のためにあるのだろうということである。つまり、貸し館的な役割だけであつたらカルチャーセンターでいいと思う。公民館のある地域(北・中央・南)があり、そこにはそれぞれの地域課題があるが、その課題が果たして公民館で話題となっているのか。本当はそういうことを地域課題として、地域の方たちが話し合い、どういう対策を取るかという方針を打ち立てていくことがすごく大事なのだが、今、こういう活動が公民館で行われていないということに危機感を持っている。

社会教育委員というのは、「和光市の社会教育はどうなのか。これでいいのか。」ということに対して、ご示唆・ご提言をいただける機関である。公民館運営審議会とはまったく立場が違う社会教育委員の方々が、和光市の社会教育のあり方について、ご意見していただき、今、課題となっているものを吸い上げた形で、地域の課題を解決していけるような社会教育をこれから推進していかないと、公民館の存在そのものが非常に大きな課題となってくる。

地域課題をそれぞれの地域で話し合って、課題解決に向かって取組みが出来るような公民館を目指していきたいと思っているので、さまざまな角度からご示唆いただきたい。

大事なことは、要求課題と必要課題のバランスを取っていくことだが、要求課題に傾注しているような取組みになっていて、バランスが取れていない。

市の役割として、地域住民の主体的な取組みを促していかななくてはならないし、また、生涯学習を

通した地域づくりを意図しながら進めていこうと思うので、今後ともいろいろな角度からご提議いただければと思っている。

5 その他

(1)今後のスケジュール

6 閉会

○村山委員

長く社会教育委員をやっているが、改めて、社会教育委員の重みや、いろいろな形でやっていかなくてはいけないことが山積みだなと感じた。

本日は、長時間ありがとうございました。